

令和5年度ゼロカーボン研究会の概要と 第2回研究テーマの説明

事務局
(備前グリーンエネルギー株式会社)

令和5年度ゼロカーボン研究会の概要

【目的】

2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを実現するため、岡山連携中枢都市圏、周辺自治体、事業者及び大学等と「ゼロカーボン社会」実現に向けた具体的な取組について調査・研究し、令和6年度以降に実現可能な事業等を創出すること。

【開催回数・時期】

合計5回のゼロカーボン研究会と、事業創出に向けた具体的内容を検討するためのゼロカーボン分科会を開催予定。

(5月、**7月**、10月、11月、1月)

【参加者】

産：各回テーマ毎に参加を希望する企業

学：各回テーマ毎に参加を希望する大学

官：岡山連携中枢都市圏構成市町、倉敷市など

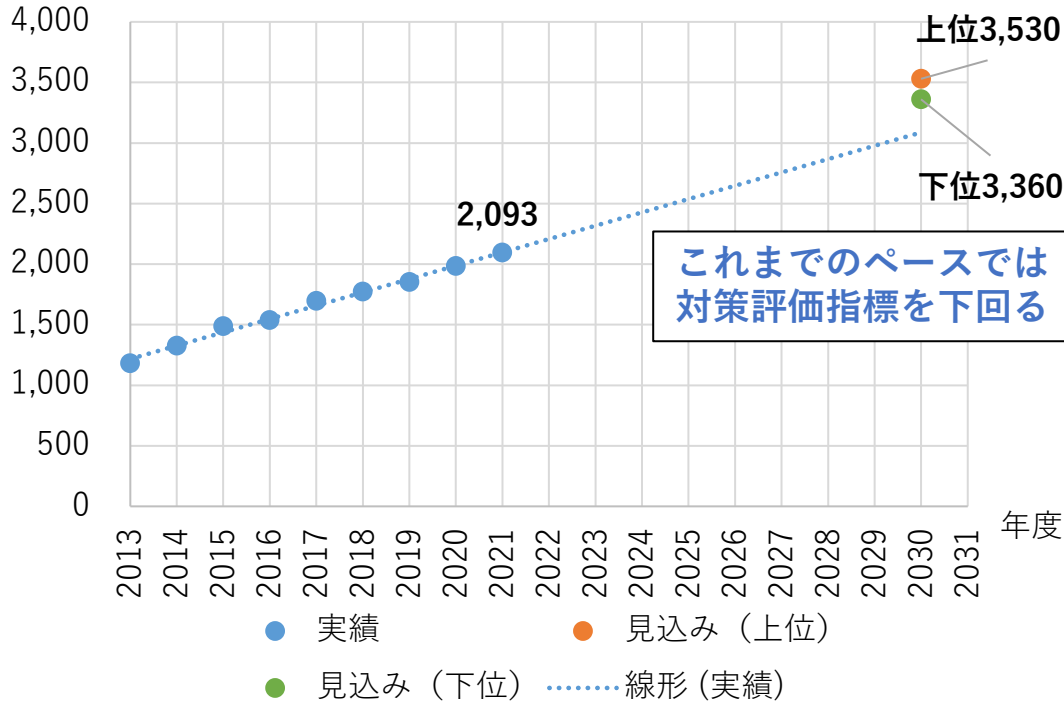
第2回研究テーマ

『地域に裨益する再生可能エネルギーの活用策』

- 令和5年6月30日に公表された、国の地球温暖化対策計画の進捗状況における再エネの最大限導入（電気）に関する進捗状況は2,093億 kWh（2021年度）。
- 2030年度対策評価指標は下位で3,360kWhとなっており、これまでの導入ペースでは指標を下回るため、さらなる再エネ導入の促進が必要。

再生可能エネルギー電気の利用拡大 進捗状況

発電電力量(億kWh)



エネルギー基本計画における2030年度発電電力量の構成

[億kWh]	発電電力量	電源構成
石油等	190	2%
石炭	1,780	19%
LNG	1,870	20%
原子力	1,880~2,060	20~22%
再エネ	3,360~3,530	36~38%
水素・アンモニア	90	1%
合計	9,340	100%

※数値は概数であり、合計は四捨五入の関係で一致しない場合がある

[億kWh]	発電電力量	電源構成
太陽光	1,290~1,460	14%~16%
風力	510	5%
地熱	110	1%
水力	980	11%
バイオマス	470	5%

※数値は概数。

出典：令和5年6月30日 地球温暖化対策推進本部 2021年度における地球温暖化対策計画の進捗状況をもとに作成

出典：資源エネルギー庁HP

第2回研究テーマ

『地域に裨益する再生可能エネルギーの活用策』

- 今後、さらなる再エネ導入促進のためには、再エネと地域が共生する社会を作ることが重要となる。
- そのためには、地域の課題解決等に貢献する地域裨益型の再エネ事業（供給者）を創出し、さらに既存の地域事業者が地産エネルギーをうまく活用する需要家となることが求められる。

災害時における再エネの地域貢献事例（2019年台風15号 千葉県睦沢町）

むつざわウェルネススマートタウン 経過概要

9月9日（月）	5時	町内全域停電
9日（月）	9時	コジエネを立ち上げ住宅と道の駅に供給開始
10日（火）	10時	コジエネの排熱を活用し温水シャワーを提供
11日（水）	9時	系統復電



<むつざわスマートウェルネスタウン (SWT)>
事業者：(株)CHIBAむつざわエナジー
システム概要：天然ガスコジエネと再エネ（太陽光と太陽熱）を組み合わせ、自営線（地中化）で道の駅（防災拠点）と住宅へ供給。コジエネの排熱は道の駅併設の温浴施設で活用。
供給開始：2019年9月1日
※経産省、及び環境省の予算事業を活用



↑周辺が停電する中、照明がついているむつざわSWT【引用：(株)CHIBAむつざわエナジー-HP】

9日に関東を直撃した台風15号の影響で、一時的に全域が停電した千葉県睦沢町。11日に系統電力が復旧するまでの間、地域新電力が防災拠点などに電気と温水を供給し、住民の生活を支えた。町が出資する地域新電力、CHIBAむつざわエナジー（社長＝市原武・睦沢町長）は今年から、道の駅と賃貸住宅を一体開発する「むつざわスマートウェルネスタウン」へのエネルギー供給を開始した。

千葉県睦沢町の地域新電力

台風時の停電解消に一役

い試みた。ガスエンジンを回して発電した電力は、地中化された自営線を使って供給される。さらにガスエンジンの排熱は、天然ガス採取後のかんの水の加温に利用され、温泉施設に供給される。新しい道の駅は国の重点施設に指定されており、広域災害時には防災拠点としての機能を担う。供給開始から間もない9日、早くもその役割が試されることになった。台風の影響で送配電線が断れた。系統電力が復旧するまで、送電を継続した。

温水シャワー無料提供も

11日午前9時頃に

以上の住民が訪れたと

いう。11日午前9時頃に

系統電力が復旧するま

で、送電を継続した。

11日午前9時頃に

系統電力が復旧するま

で、送電を継続した。

11日午前9時頃に

系統電力が復旧するま

で、送電を継続した。

11日午前9時頃に

系統電力が復旧するま

で、送電を継続した。

↑ 9月17日付 電気新聞

第2回研究テーマ

『地域に裨益する再生可能エネルギーの活用策』

【講演の観点】

今回の研究会では、地域の再生可能エネルギーの活かし方、米子市での地域再エネ事業の取組、老舗酒蔵での再エネの率先した活用事例についてお話を伺い、再エネとうまく共生する地域の実現に向け、自治体・民間事業者は、今後どう動くべきかについて考える。

本日の講演内容

内容	講師
(1) 地域の再生可能エネルギーの活かし方	一般社団法人ローカルグッド創成支援機構
(2) 米子市でのエネルギーの地産地消による地域経済基盤の創出	ローカルエナジー株式会社
(3) 伝統と革新の両立がもたらすカーボンゼロな酒造り	株式会社神戸酒心館